

学修・教育開発センター（CRED）

<社会パートの主な流れ>

社会テーマの発掘と決定

テーマに関する調査と共有

自分たちが取り組める内容を議論

発表準備（資料作成や録画等）

チームごとの発表と評価

前期授業も折り返しを過ぎ、6月上旬の第8回からは社会パートと呼ばれる「社会に向き合うプロジェクト」が始まりました。

自分たちがどのように自主自律の道を歩むのかを考えはじめる契機となるように、全ての人が活躍できる社会とどのような社会か、そのために必要なことは何かについて様々な視点からアプローチし、社会の現実を認識していきます。授業外学修で資料や記事を調べ、また立場の異なる人と対話すること、協同学習を進めることにより取り上げるテーマを決め、全ての人々が活躍する社会となるために取り組めることを考え、提案します。

授業の様子（6月）

いよいよ後半へ
「社会に向き合うプロジェクト」スタート

学生が選んだ テーマ例

『食品ロス』

調査と共有 安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫などの理由で流通できない食品を貧困世帯などに寄贈するフードバンクが広がっている。しかし、その商品に売れ残りのイメージが付くとして、**フードバンクへの協力をためらう企業**がある。

自分たちが取り組めること フードバンクが**貧困家庭の子どもを救うなど正しい理解**を広めていく。

『少子高齢化』

調査と共有 社会保障制度の維持が困難になり、高齢者のクオリティオブライフの低下、**若者の介護負担の増加**も引き起こす。社会全体が**疲弊**して、負のスパイラルに陥る。

自分たちが取り組めること **少子高齢化への改善策**を掲げている**政治家へ選挙で投票**すること、これらをSNSやインターネットを使ってわかりやすく若者や世間に広めること。

『環境問題』

調査と共有 ZARA、ユニクロ、無印良品、H&Mなどは**着なくなった自社の製品を回収**し、寄付やリサイクル、新たな生地へと変換されている。

自分たちが取り組めること それらの店舗へ休日にわざわざ持って出掛けるのが面倒な人もいると思うので、**大学に回収ボックスを置く**ことで、そこに通っている大学生や先生から、効率よく集める仕組みを提案する。

担当教員レポート

グループワークを重ねて見える学生の変化と授業の意義を持たせるために



鈴木 由子
Yuko Suzuki

服飾美術学科
講師

スタートアップ自主自律は、現在後半のグループメンバーで進行中です。授業当初の学生たちは、グループ内での話し合いで設定時間内に済むと、話し合いを止め、教員の次の指示を待つ姿が見られました。現在はグループ内の個別発表の度に自然に拍手が起こるなど、学生同士の交流がとても自然に行われています。

5月に授業補助のSAから学生たちの思いを聞くことができました。正解が何かわからず、抽象的過ぎるというものでした。それを受けて、強制にならないよう小出しにヒントを与え、学生たちが授業の意義を納得することで少しでもポジティブになれるように、学生の気付きを待つことから変更しました。学生たちに気付いてほしいと思っていたことは、

今後学年が上がリ、卒業研究発表や、卒業後に仕事でプレゼンテーションを求められる機会があり、この授業はそのための失敗できる練習の場であることです。また、卒業後に自律的な生活をする上で、多様な専門知識を持つこのクラスの友人から、色々なヒントを得られる可能性があることです。さらに、正解が一つではないものをテーマに扱うことで、様々な角度から物を見たり考えたりする力を伸ばすことができ、そのためには他者の意見が参考になるということです。

「他の大学にはこのような授業はない」と学生が言ってきたことがあります。学生にとってこの授業を受講出来て得をしたと思えることを目指し前進中です。

誰と対話し、どんなテーマを深めた？



第9回授業の事前課題として

“異なる立場の人（異世代、異性、社会人等）との対話を通じて、身近に起きている社会問題や、社会的な良い動き・成果を把握しましょう”という内容に学生たちは取り組みました。

社会で起きている問題に関心を持ち、自分の意見を相手に伝え、それに対する意見を聞くことで、考えを深める目的です。

実際に、学生が誰とどんな対話をして、何を考えたのか？その中からいくつかご紹介します。



誰と 母 テーマ 片親家庭

最近幼稚園などでもパパママ参観等の名前がついたものは無くなりつつあります。片親の養育者側の援助は増えているけれど、子どもへの配慮は未熟だと話しました。様々な価値観を養うには、小さい頃から固定した価値観を植え付けられないようにすれば、少し変わるのではないかと話し合いました。

誰と 他大学の友達 テーマ ジェンダー

友だちが通っている他大学に中性的な子がいると聞いたので、話をしました。その子の性認識を知ったとき、友達はそれを受け止めましたが、偏見が含まれそうな会話のときには、慎重に言葉を選んで話すようにしているそうです。その子自身も、話す相手を選んだり、気を使ったりしているように見えますと言っていました。男性・女性・LGBTなどの性別で捉えず、個性や一人の人として捉え、それを受け止める柔軟さを兼ね備えた社会になればいいと思います。

誰と 男性の先輩 テーマ 女性の社会的地位

女性の社会的地位についてどのような問題点があるか話しました。日本では、形式的には男性と女性を同じ立場にしようとしているけど、文化的にはまだ浸透していないと彼は言っていました。国が企業等に任せるのではなく、議員の擁立などで国全体として平等性を高めなければならないといけなと話しました。また、年配の方々は格差を昔から受け入れている傾向があると思いますし、若年層でもこの問題を深刻に考えていない人もいます。男女ともに格差を甘んじることなく、誰もがこの問題に危機感を持たないといけなと話しました。

誰と 父 テーマ 地球環境

地球上の限りある資源が失われている現状を話しました。次世代が使えるエネルギーは少なくなり、新たなエネルギー源を作り出す必要があると思いました。特に海の環境問題が深刻で浜がどんどん削られ、大きな改善策を早急に考えないと、近い未来、日本は海に沈んでしまうのではないかと緊急性の高い課題に気づきました。一人ひとりが今ある社会問題に目を向け考え直す必要があると思います。

誰と 母 テーマ 物価上昇

ウクライナの戦争などによって資源が不足していることが問題であると話しました。日本は資源が少なく、自国で賄えない分を輸入するために物価が上昇、その結果、生きづらい世の中になっていると話しました。大きな要因である戦争のない世界のために、できることはあまりなかもしれないけど、寄付をしたり、今起きている状況を知ってもらうために情報を拡散したり、自分ができたいことを感じました。

SAも奮闘中

そこで「SA意見交換会」を開催し、互いに相談し合い授業の様子を共有する時間を設けました。最も時間が割かれたテーマは「グループワークでどのように声掛けしたら良いか？」でした。

SA自身も1年次に「スタートアップセミナー 自主自律」を履修したとはいえ、SAの立場になれば授業の見え方は全く異なり、授業が進むにつれて悩みや迷いも多く出てきます。

SA意見交換会を開催

6月10日(金)
6月15日(水)

- 答えを出さないように気をつけながら、「何を根拠にそれを問題にしたのか？」などとナビゲートしている。声かけするときは5 W 1 Hを意識している。
- 社会パートに入り、グループワークの進み具合の差が目立つようになってきた。早く終わったグループには、次の話し合いに向けて考えた方が良いことを声かけしている。
- 例え話をしながら問いかけることで、議論を促すのは有効だと感じる。
- 教員が履修生へグループワークの巡回中に「それはどうして？」などと細かく質問して、履修生は最初の頃は苦戦していたが、なぜ？と考えることを意識して深い話し合いができてきているようだ。
- 教員やSAが他のグループへ質問している様子を見ると、自分のグループもしっかりディスカッションしようと思うように、クラス全体が活気づいている。

次の授業で自分も取り入れてみようと思っつコソを持ち帰ることができた参加者も多く、昼休みを利用した短時間ではありましたが、有意義な会となりました。

『教員SA合同意見交換会』もやります！
8月2日(火) 13時～14時 オンライン